

第2回

# 大学図書館サービスの新たな展開

## 【講演とワークショップ】

### 参加者アンケート集計結果報告書

2009年7月10日(金)実施

研修担当：NPO法人 大学図書館支援機構(IAAL)／高野真理子

- 日時：2009年7月10日(金) 13:00-17:00
- 会場：埼玉大学東京ステーションカレッジ (JR サピアタワー 9階)
- 主催：私立大学図書館協会東地区部会研究部
- 運営：NPO法人 大学図書館支援機構(IAAL)

## 【1】まとめ

総合満足度：**4.92**点(5点満点)

まとめ \*\*\*\*\*  
**刺激的で実践に役立つ面白い内容を斬新なプレゼンで楽しく学べて、新たな視点から未来が見えて来た！グループワークは情報交換の機会になって良い。時間不足が残念。もっと聞きたいテーマ多数。新しい形の研修の今後が楽しみ！**  
\*\*\*\*\*

### ■講演 13:10-14:30 (70分+質疑10分)

「次世代図書館員のための自己アピール講座－存在感訴求力をどう身に着けるか－」  
仁上幸治氏 (にかみ・こうじ／帝京大学 総合教育センター 准教授；元・早稲田大学図書館)

### ■ワークショップ 14:40-17:00 (140分)

「図書館の存在価値を訴求するPR企画演習－双方向コミュニケーションをどう演出するか－」  
渡邊 崇氏 (わたなべ・たかし／広告制作ディレクター・コピーライター)

## 【2】概要

### ■講演

「次世代図書館員のための自己アピール講座－存在感訴求力をどう身に着けるか－」

仁上幸治氏（にかみ・こうじ／帝京大学 総合教育センター 准教授；元早稲田大学図書館）

司書職の専門性が崩壊の危機に瀕する状況にあって、専門性の社会的認知を回復し向上させるためにはパブリック・リレーションズとマーケティングの視点が必要不可欠となっている。図書館員は学術情報リテラシー教育に参画する機会を積極的に増やし、コミュニティの教育研究に不可欠な専門的役割を評価されるよう努力するべきである。図書館員の社会的イメージの問題点を整理し、新しい学術的専門職像の訴求をめざす広報イメージ戦略の基本的な考え方と取り組みアイデアを提示する。

### ■ワークショップ

「図書館の存在価値を訴求する PR 企画演習－双方向コミュニケーションをどう演出するか－」

渡邊 崇氏（わたなべ・たかし／広告制作ディレクター・コピーライター）

「大学図書館のPR」とは何をどうすればよいか。世界中の人々がこぞって訪れる図書館や博物館のブランド戦略の成功事例が参考になる（大英図書館、ニューヨークメトロポリタンミュージアムなど）。PRとは「パブリック・リレーションズ」であり、一方的に情報を告知するものとは異なる。図書館側と利用者側の間に双方向のコミュニケーションが成立するようなサービス展開はどうすれば可能か。ワークショップ形式でプランニング、発表、相互評価を体験することにより、図書館のコミュニケーション実務に必要な感覚を身に着けることを目指す。

## 【3】企画

### ■事前課題

事前課題を2点通知し、事前に提出してもらい、講師側で準備の参考にする。2点あるので1週間の間隔を置く。

(1) 論文予習 > 締切:6/26(金)

仁上幸治の著作リストから1点を選び、以下の内容でレポートを作成する。

ホームページ

[:http://www.dcn.ne.jp/~bbutler/~nikami-home/](http://www.dcn.ne.jp/~bbutler/~nikami-home/)

- 1) 読んだ論文
  - 2) 感想をひとことで(20字程度)
  - 3) 選んだ理由
  - 4) 自分の館で役立つと思った点
  - 5) もっと詳しく知りたいと思った点
- (A4判、横書き、1枚、1200字程度)

(2) PR活動の現状報告 > 締切:7/3(金)

- 1) 実施している活動名
- 2) 現状
- 3) 問題点と課題
- 4) 改善プラン

(A4判、表形式、1-2枚程度)

### ■成果評価

(1) 当日アンケート

終了前に10分間程度の記入時間を設ける。その場で回収し、事務局で集計し、講師へ送付する。書式と集計のワークシートは講師側で用意する。

(2) 事後フォローアッププログラム

やりっぱなし研修の悪弊を打破するため、フォローアッププログラムを用意する。1ヶ月後、3ヶ月後、6ヶ月後、1年後に、取り組み成果をレポートしてもらう。

の一環としての位置づけで実施する。

参加者には、事前課題の通知時に、懇親会の参加の予約を取る(当日参加もアリ)。

会場は、講師側で用意する。参加者数を3日前までに確認。

■懇親会

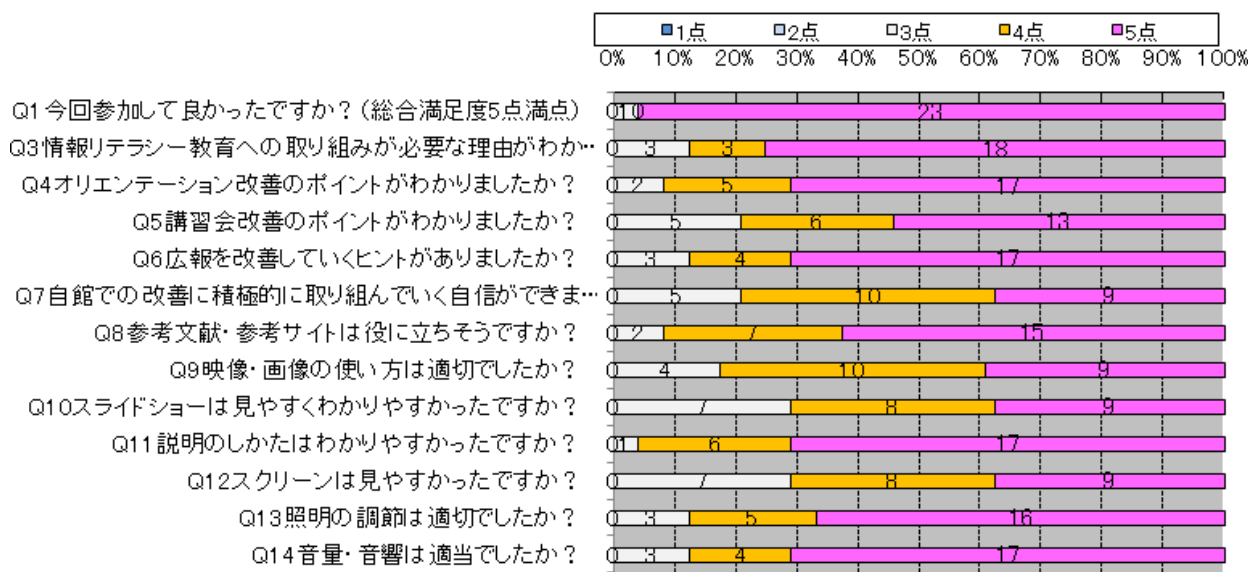
懇親会は、単なる飲み会にせず、はっきりと、ゲストとの懇談、参加者同士の交流、主催者への要望、反省、討論など、コミュニケーションの場という研修

【4】評価： **総合満足度:4.92 点**

表1. 5段階評価結果

	1点	2点	3点	4点	5点	平均
Q1 今回参加して良かったですか？(総合満足度5点満点)	0	0	1	0	23	4.92
Q3 情報リテラシー教育への取り組みが必要な理由がわかりましたか？	0	0	3	3	18	4.63
Q4 オリエンテーション改善のポイントがわかりましたか？	0	0	2	5	17	4.63
Q5 講習会改善のポイントがわかりましたか？	0	0	5	6	13	4.33
Q6 広報を改善していくヒントがありましたか？	0	0	3	4	17	4.58
Q7 自館での改善に積極的に取り組んでいく自信ができましたか？	0	0	5	10	9	4.17
Q8 参考文献・参考サイトは役に立ちそうですか？	0	0	2	7	15	4.54
Q9 映像・画像の使い方は適切でしたか？	0	0	4	10	9	4.22
Q10 スライドショーは見やすくわかりやすかったですか？	0	0	7	8	9	4.08
Q11 説明のしかたはわかりやすかったですか？	0	0	1	6	17	4.67
Q12 スクリーンは見やすかったですか？	0	0	7	8	9	4.08
Q13 照明の調節は適切でしたか？	0	0	3	5	16	4.54
Q14 音量・音響は適切でしたか？	0	0	3	4	17	4.58

図1. 5段階評価結果グラフ



**【5】記述内容** \* アンケート記入の原文のまま。

**Q2 印象を一言で（総合満足度別）** =====

**総合満足度5点**

- ・PRの大切さや新たな視点を持つことの大切さを学びました。ビジネス的な考え方にも触れることができよかったです。
- ・実践的でしたかなり面白かったです。
- ・他大の取り組みアイデアが聞けて充実した講義でした。
- ・実に有意義でした
- ・すごく楽しく遊び感覚で参加してしまいました。自分が楽しくなければ、必要でなければ、ダメだと思いました。
- ・図書館の”CM”という発想に刺激を受けました。
- ・刺激的でした。
- ・他大学の動向が良くわかった
- ・面白かったです
- ・楽しかった！ゆっくり講演をお聞きしたかった。
- ・具体的な例が多く非常に参考になりました。
- ・これだけ人数が集まれば、面白い案が出て来る

んだなと感心しました。

- ・広報活動に取り組んでいる大学がたくさんあることに驚きました。
- ・画像というのは、有効なPR方法なのだということ。
- ・新しいPRイメージが沢山出てきました
- ・各館の取り組みを知ることができてよかった
- ・図書館で働いてて良かったです。未来が見えて来ました。
- ・情報交換でき大変おもしろかった
- ・斬新的で今後の活動のヒントになった
- ・実践に役立つ内容でした。
- ・面白かった
- ・枠にとらわれない発想が多く聞けてよかった
- ・やっぱりちょっと納得できない部分がありました。

**総合満足度3点**

- ・亀の話は不要

**Q15 もっと詳しく聞きたかった点はどのような点ですか？（100字以内）** =====

- ・パブリック・リレーションズについてのもう一歩深い考え方や取り組み、プロダクトコーンを用いるにあたってのポイントや図書館員に必要な能力
- ・大学図書館で有効な広告戦略を聞きたかったです。
- ・十分満足できました。特にありません。
- ・今後どのようなサプライズな事(オリエ)を考えているのかについて知りたい。
- ・広報誌の良い例も見たかったです。
- ・パスファインダーは、ホームページを例に説明されていましたが、もっと他にも様々に応用が出来そうで奥が深いと感じました。他の応用例も聞きたいと思いました。
- ・映画の画像は著作権に抵触しませんか？
- ・図書館員そのものが広報という点は、「本当に！」と思わされます。多様な雇用体系「？」なスタッフ等々の中でのイメージ作り(研修(館内))のポイントがあれば経験上教えていただきたい。
- ・広報戦略の必要性。研修に生かし方、講演会や広報の改善のポイント。
- ・ブランディングについてもっと詳しく聞いてみた

- いです。学生、院生の活用方法についても教えて頂きたいです。
- ・何か行動に移したくても決定を下すのは上司なので上司の意識を変えさせる方法があれば知りたいです。
- ・オリエンテーションの実際、帳票の実際
- ・現在の大学職員のあり方、専門職についての考え方、大学職員として異動がある点の考え方
- ・ある図書館員がステレオタイプ通りのキャラクター(本好き>人嫌い)だった場合PRをどうするのか。
- ・もっと面白い(いろんな意味で)図書館員になりたいです。図書館でしか使えない奴にはなりたくないです。学生第一に
- ・広報=PRという図式は頭ではわかっているけど、具体的に双方向のコミュニケーションをどのように実現していくか、利用者の声を集める方法
- ・組織内で改善を推し進めるノウハウ
- ・達人の域に達するまでの苦労した点等も聞けると良かったなと思いますが、今回のお話だけで満足です。

・職員同士でプレゼンスキルを磨きあってゆくためのヒント(自分でできることはすべてやっていくというお話もありましたが)

・テレビドラマで悪く描かれることが社会的イメージが悪いことになるという考えはどうも納得できないのでその辺りを。

**Q16 講師へのご意見ご要望など**=====

- ・とっても参考になって良かったです。また、ありきたりなプレゼンでなかったのが良かったです。
- ・プレゼンテーションの仕方を参考にさせていただきます。
- ・”ワカメ”の登場など映像を使用したスライドショーは楽しめました。かわいかったです。ただオリエンテーションで映画を使用する際の著作権が気になりました。
- ・次回の講演を楽しみにしております。できれば、本学の館員研修でお話いただければなあ・・・と思いました。
- ・いつも目からうろこ状態なので、仁上先生がどんな取り組みをされているのかを速く情報収集したいです。後、話し方のコツとかもお聞きしたいです。
- ・大変参考になるお話でもう少し時間が欲しかったです。後は、参考文献で勉強させていただきます。
- ・あこがれの仁上先生のお話を間近に聞いて感激です。
- ・非常にわかり易かった
- ・有意義なお話はありがとうございました。お二人のお話は、興味深かったです。
- ・初めてお話をうかがいましたが、とても楽しくあつという間の時間でした。できれば、資料を最初に

- 頂きたかったです。
- ・お二人とも聞いていて飽きさせず、さすがだなあと思いました。
- ・実際にどのような工夫をされているのかを聞くことができとても役立ちました。
- ・大変面白く為になるお話でした。ペットの動画からどういう展開になるかと思いましたが、わかりやすかったです。
- ・とても興味深い講演をありがとうございました。レポートにもとてもインパクトがありましたが、講演を聞かせていただき、さらに理解が深まりました。
- ・これからもこのような講演を行って欲しいと思います。
- ・仁上先生の話はやっぱり引き込まれます。ワカメはかわいいですね。渡辺さんの話も外からの視点でおもしろかったです。
- ・お話は、わかりやすかったです。具体的なお話も聞けたら・・・ちょっと時間が短かったです。
- ・プレゼンの方法が非常に参考になりました。渡辺さんのPPTがスタイリッシュでよかったです。
- ・渡辺先生の経歴を伺って、図書館員を再確認しました。
- ・お二人とも話しが上手で、かなりわかり易かったです。
- ・渡辺先生の図書館外からの視点でお話を伺えたのも新鮮で参考になりました。

**Q17 講演会の準備や運営へのご意見ご要望など**=====

- ・いつもありがとうございます。
- ・快適にすごすことができました。ありがとうございます。
- ・事前に自由席という事を伝えていただければ、戸惑わなかったと思います。
- ・今回の研究はすぐに役立つものなので、すごくありがたい企画でした。
- ・いつもありがとうございます
- ・ワークショップについては、事前にもう少し準備できていれば、完成度の高いものを作成できたと思うので、宿題の形で(もっとはっきり)出ていても

- 良かったです。
- ・もう少し30分1時間長い内容でもよいのでは？(著作権問題等)
- ・いつも準備ありがとうございます。新しい形の研修なので楽しみです。
- ・いつもありがとうございます。これからも宜しくお願ひ致します。
- ・準備等いつも大変だと思います。どうもありがとうございます。
- ・現状で満足しています。
- ・課題について今回印刷して来ていなかったのでは

すが、今後初回のように配布する予定があるので  
しょうか？

- ・メディアプレーヤーで見られなかった動画が見  
たかったです。
- ・会場は快適でした。時間配分も適切だったと思  
います。
- ・一番最初に来場した際、入り口がわかり難く迷っ

たので、もう少し案内を出して欲しい。

- ・図書館に異動して2年目ですが、受け身の研修  
が多く、物足りなさを感じていましたが、今回のよ  
うなグループディスカッションや発表があると緊張感  
もあるし、他館の方とも話しやすくてよいと思いま  
した。

## Q18 今後の研修会・講演会等のテーマについてのご意見・ご要望などをご自由にどうぞ。＝

- ・今回のような意見交換をする機会があると良いと  
思う。
- ・グループディスカッションは、他大と話す機会に  
もなりよかったです。
- ・すぐ実践できる、アイデアにつながる将来性のあ  
るものを宜しくお願い致します。
- ・大変役に立ちそうで実践しやすいテーマだと思  
います。
- ・業務スタッフ等との連携のポイント協力体制につ  
いての体験談etcについてのヒントになるお話があ  
ると嬉しいです。
- ・情報リテラシー、図書館システム
- ・各館の実例報告、紹介の機会などがあると参考  
になります。
- ・プレゼンテーション能力を向上させるような内容  
の研修があれば出てみたいです。

- ・業務を行っている上で、どの図書館でも問題と  
なっているようなことをテーマにしていただけると  
嬉しいです。
- ・情報リテラシー教育やオリエンテーションにつ  
いて伺えたらと思います。
- ・今後とも図書館・図書館員の社会的イメージを  
向上していけるような講演をお願い致します。
- ・コンピューターのシステムのことに暗いので、  
そのような講演をやっていただけたらと思います。
- ・課題の締め切りをもう少し長くして欲しいです。
- ・情報交換の時間があると良いと思います。
- ・新しいサービスの形態などは、実際の実例紹介  
など、また、その方法
- ・今回のようなグループディスカッションがあると嬉  
しいです。

## 【6】講師から

### ■仁上幸治

お疲れ様でした。懇親会はすごい盛り上がりで  
したね。やっぱり、みんな人と話したいんでしょう。  
設定して正解だったと思います。講師としてご期  
待に添えたかどうか、アンケート結果を待ちたいと  
思います。貴重な講演機会をいただき感謝してお  
ります。

質疑応答と懇親会での質問につき補足します。

#### 1)「動画の著作権が心配」

教育機関では許諾無用です。著作権の半端な  
知識で躊躇するより、いちど本で確認したうえで、  
動画を活用することを考えてはいかがでしょうか？

#### 2)「広報誌の良い例も見たかった」

良い例を図書館界の実例に求める必要がある  
でしょうか？ これだけ世間にビジュアルの実例が  
あふれているのですから、通勤途中に外出先で

等いくらでも見習うべき参考事例が見つかるの  
ではないでしょうか？

#### 3)「資料を最初に頂きたかった」

資料事前配布方式も有効な場合があることは  
確かですが、それだけが唯一ではありません。受  
講者に下を向かせない工夫のひとつとして体験し  
てもらうためにあえて事後配付方式を採用して  
みました。違うやりかたの可能性をご理解ください。

#### 4)受講者の情報交換

メーリングリストを以下の2つ動かしてみても  
いかがでしょうか？

a)受講者 ML(受講者のみ)

b)研修分科会 ML(主催者+受講者)

ともあれ、今後の研修分科会のますますのご発

展をお祈りしております。取り急ぎお礼まで。  
最後にもう一度。めぎそう、たのもしい・めざまし  
い・すばらしい・りてらしい司書！ (^)y

## ■渡邊崇

私の拙い講演で大変失礼いたしました。参加者の皆様のご協力があってこそこの賜物でした。なにより私のほうこそ、大変に刺激を受けました。大学図書館司書のイメージが大きく覆ったのは私のほうでした。。

昨日の皆様のプレゼン姿を、学生がみたら図書館利用者も増えるし、司書に声をかけたくなる学生も増えるだろうと思いました。それくらい、どの案も魅力的でしたし、グループごとに違うカラーができていましたし。ホワイトボードを示しながら熱く語る図書館司書って、一般人はなかなか想像できませんから。ビデオ撮っとけばよかったですね。

懇親会でも司書の方がお話されていたのですが、あの場集った皆様が一つの大学図書館に集まったとしたら、きっと最高の図書館が誕生するんじゃないでしょうか。そのくらい刺激的で有意義な時間だったようです。貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。

以下、アンケートの「もっと詳しく聞きたかった点」について補足いたします。

(1)「広報＝PRという図式は頭ではわかっている、具体的に双方向のコミュニケーションをどのように実現していくか、利用者の声を集める方法」

双方向のコミュニケーションのとり方は、突き詰めると非常に難しいテーマです。広告業界でも永遠の課題というくらいで、「これ！」という答えがあれば私が知りたいくらいです(笑)。ただ、図書館司書という観点から考えてみると、まず必要なのはリアルタイムの情報共有だと思います。今回のワークショップでも感じましたが、普段、やはり他

大学との交流もなかなかないということでしたので、これを機に司書同士のコミュニケーションツールをつくってみてはいかがでしょうか。情報が広がり、参考になるような事例が共有化されれば、仕事の中での「幅」もどんどん広がっていくと思います。一般企業ではそれが盛んですし、むしろ情報戦の中で切磋琢磨する世界なので、異なる世界観でのコミュニケーションは非常に重要視されています。少子化が叫ばれてから久しく、大学全入学時代が訪れる環境下では、さらに大学図書館の役割も大きくなるはずだと思います。

### (2)「組織内で改善を推し進めるノウハウ」

非常に難しい課題ですね・・・まず「図書館は保守的だから」と思うことがよくないかもしれませぬ。大学図書館のあるべき姿を館内研修というカタチでもよいと思うので、一度洗い出してみ、そこからできることはなにかを考えていくのが大切かと思います。例えば一般企業でも個人のアイデアはなかなか実現しにくいです。私も大手企業内で自ら志願して新規事業を立ち上げた経験がありますが、実現までに2年、それを評価されるまでに3年かかりました。そこでは自分の評価や給与、昇進などは一切考えませんでした。なぜならそれが「邪魔」になるからです。ほかに実現した事例で共通するのは、一人の社員の徹底したプレゼンや何度もボツになったけどあきらめずに挑戦したことがあげられます。あとは、あくまでも主要利用者である学生に支持される施策も一方では実現すること。やはり学生とはいえ、一番の利用者から支持をうけることほどの説得力はないのではないのでしょうか。

## 【7】事務局から

### ■高野真理子 (IAAL)

仁上様、渡邊様

本日は、大変ありがとうございました。お久しぶりに、仁上様のお話を聞けて、私自身も楽しませていただきました。また、渡邊さんの広告専門家のお話は、図書館の若者に、凄くし劇的だったようです。アンケートは軒並み評価満点で、受講者の満足を得る事ができました。今後とも、よろしくお願ひ致します。懇親会に出席できず、申し訳ありませんでした。

・当日言い忘れたこと。

L-ラーニング研究分科会で、図書館リポジトリを運営しています。今回視察で来られた早稲田大学図書館・金子和代さんから、是非、この成果をリポジトリに反映させてくださいと言付かりました。各館のアイデアを集め、参考にして、大学図書館全体が愉しくなっていくといいですね。

・アンケートでいただいた内容を、次回以降に生か

していきたいと思っています。

・12月の研究発表会で、どのように成果を見せるか検討中です。今回の皆さんのプレゼンテーションを拝見して、面白い企画ができるのではないかと希望(?)が湧いてきました。よいアイデアがありましたらお寄せください。

### ■宮川良男 (私立大学図書館協会東地区部会研究部担当理事校 東京理科大学図書館事務課)

仁上先生 先日は大変お世話になりました。有意義なご講演、グループ討議、そして懇親会とても良かったと思ひました。これからもよろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

(メールより)

以上■(2009.9.22)